

2022 年度第 2 回研究例会「札幌圏大学コンソーシアムの可能性を探る」

趣意書

北海道高等教育研究所

事務局 山口博教

1. テーマについて

当研究所では札幌圏に大学コンソーシアムがないことをかねてより疑問に思い、問題視してきました。北海道ではかつて教授会連合で文科省私学助成金、道庁総務部学事課の大学設備補助金増の運動を行っていました。しかし近年この組織は実質的に機能していません。

大学コンソーシアムは京都で始まり、現在各地域で百数十の組織が活動中です。北海道では旭川のウェルビーイングコンソーシアム、函館のコンソーシアム、国立大学教養教育コンソーシアム北海道がありました。（道内 3 国立大学統合に伴い最後の組織は解散したようです。）

そこで札幌圏でもこのようなコンソーシアムを立ち上げられないか、その可能性を探りたいと考えています。その第 1 歩として、道内とは地理的に近い学都仙台コンソーシアムの経験から学びたいと思い、今回の研究会を企画しました。なお道内コンソーシアムに関しては、研究会で多少触れられていますので、今回仙台報告に時間を多く割きます。

2. 講師

・旭川ウェルビーイング・コンソーシアムについての報告

竹中英泰（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム理事・旭川大学名誉教授）

・キャンパス・コンソーシアム函館についての報告

田中邦明（当研究所理事、北海道教育大学函館校名誉教授）

・学都仙台コンソーシアムについての報告

千葉昭彦（東北学院大学学務担当副学長、経済学部教授）

講師への依頼と謝礼

a.コンソーシアム発足の経過、b.構成団体、c.コンソーシアムの主活動に触れて下さい。

それ以外については一任します。また終了後研究所のニュースレターに掲載する原稿を書いていただきます。なお薄謝ですが、謝礼をお支払いします。

3. 日程と形態：4 月 22 日（土）14 時開始、16 時半前後に終了予定

・ ZOOM 会議とする。ホスト担当：光本滋（当研究所事務局、北大教育学部准教授）

・ 報告：旭川報告 30 分、函館報告 30 分、仙台報告 60 分

・ 休憩 15 分

・ 質疑：報告者間で 30 分、会場参加者と報告者者間で 30 分

・ 開会挨拶：光本、司会：山口、閉会挨拶：寺本（当研究所事務局、元北海道専修大学学長）

質問等ございましたら、山口宛てにメールして下さい。